

■第21回放鳥 長岡生まれのトキも大空に

佐渡市で11年前から実施されているトキの自然放鳥。9月27日と10月2日に21回目の放鳥が行われ、野生に帰るための訓練をしてきた17羽が放たれました。



この中には、平成28年に長岡市で生まれたメスも入っていました。

📷長岡にいた時の写真です。

今回の放鳥は2つの方式で行われました。

このうち10羽は野生復帰ステーションから離れた片野尾地区で、箱から飛び立たせる「ハードリリース」方式。

これはトキの生息場所を広げることや、すでに形成されている群れに合流させることが目的です。



写真提供 環境省

日本の野生のトキは、昭和56年に人工繁殖のためにすべて捕獲されました。片野尾地区は最後の5羽が暮らしていた場所です。



写真提供 環境省

箱から一斉に飛び出したトキは、38年ぶりに片野尾地区の空を舞いました。

長岡市生まれを含む7羽は、新穂地区にある野生復帰ステーションの順化ケージから自然に飛び立たせる「ソフトリリース」方式で放鳥されました。長岡市生まれとしては24羽目の放鳥です。

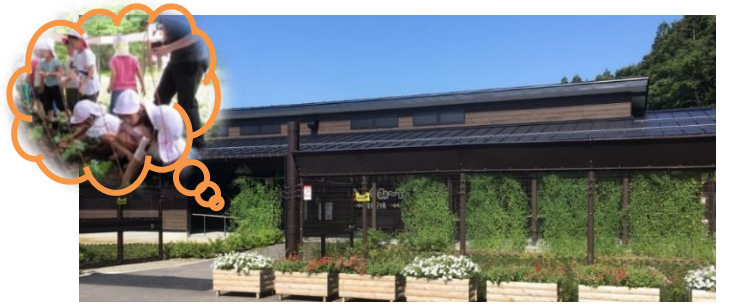


写真提供 環境省

佐渡に生息する野生下のトキは約430羽。これは佐渡の人たちがトキの生息環境を整えているからこそその成果です。将来長岡で暮らせるようになるにはどうしたら良いのか、改めて考えていきたいと思いました。

■酷暑を乗り越えました！

暑さが厳しかったこの夏、寺泊地区では8月15日に40.6度と気象庁が統計を取り始めてから最も高い気温を観測しました。そんな暑さと日差しを和らげてくれたのが、5月におおこうづ保育園の園児が植えてくれたフウセンカズラです。立派な緑のカーテンになりました！



トキは木の下で日差しを避ける毎日でしたが、来館者の皆さんは緑のカーテンで、ひと時の涼を感じているようでした。

